

浅草らしさを残す



と思われるが、並木藪蕎麦はあえて元通りの二階建てとした。
引違い戸の入り口を入ると、那智黒石による洗い出し仕上げの土間に椅子とテーブルが置かれている。そして左側の一段上がった畳の上に座卓がある。土間との境の天井には、下がり壁があり落とし掛けに竹を用いている。これも以前の店舗と同様である。これならば、以前の店舗を知る再び訪れた客も中に入って安心するだろう。
木造モルタル塗の防火造を耐火造に建て替えることにより、外観をモルタル塗から漆喰仕上げにすることができ、一層、歴史的景観形成に寄与することができた。看板は一部腐蝕していたが、新調するのではなく、腐食した上部のみを新しい材料に取り換えて使っている。



浅草寺の門前町として古くから栄え、日本の歴史や和の雰囲気大切にしている浅草の町。「並木藪蕎麦」の建て替え事例は、建築の分野からも町おこしの面からも、興味深い限りである。

一級建築士 三船康道
ジェネスプランニング(株)代表取締役、希望郷いわて文化大使、NPO災害情報センター理事、NPO歴史的建造物とまちづくりの会理事長。浅草とも縁が深い。

老舗蕎麦屋の心意気

浅草の魅力の一つに、昔ながらの日本情緒を今なお残していることがあげられるだろう。老舗「並木藪蕎麦」の建て替えに見る、浅草の町への想いについて、歴史的建築物の保存や建物の防災のアドバイスを行っている三船康道さんに寄稿していただきました。



「並木藪蕎麦」は二〇二〇年のオリンピックのマラソンコースにもなっている台東区雷門の並木通りにある。「藪蕎麦御三家」の一軒だ。漆喰塗りの美しい白壁が印象的で、いつもお昼時には行列が出来ている。風情のある佇まいで、一見、木造のように見えるが実は違う。現在の建物は、二〇一一年十一月に建て替えられた鉄骨造二階建て（二部三階建て）の建物である。

旧店舗も二階建て（一部三階建て）で、モルタル塗の外壁を持つ木造の建物であった。並木通りは建て替えが進み、他に木造建築は無く、そのため並木藪蕎麦は木造の風情を持つ建物として評判であった。

店主に話を聞くと、老朽化による店舗の建て替えにあたっては、防火地域に指定されているため、木造では無理で鉄骨造で建て替えることにしたという。そして、先々代と先代が培ってきた店の雰囲気大切にしようと思っ、お客様から失望される雰囲気にはしたくなかった、と。
周辺では十四階建てのマンションやオフィスビルが建設されている。土地の有効利用を図り法定容積率の限度一杯まで使おうとすれば、高層ビルにして一〜二階を店舗にすることが効率的



安心・安全
味わいのある
卵を食卓へ。

配合飼料・鶏卵
倉持産業株式会社
代表取締役 倉持一彦

〒303-0044 茨城県常総市菅生町 683-1
TEL 0297-27-1131(代) FAX 0297-27-1314

墨堤地藏坂上
おぼろ茶餅
電話東京(3611)6831



創業百十余年。
今も変わらぬ
墨堤の味。